



## 面会ができない

新型コロナウイルスの感染拡大により「病院、高齢者施設、障がい者施設にいる親族に会えない」という相談を伺いました。市民病院をはじめ、面会を基本禁止している施設は多く、ガラス越しやオンラインといった代替手段を用意できていない施設もあります。

面会できないことは、入院・入所している人やその家族にとって大きな負担・ストレスになるので、どうすれば代替手段を広められるか考えなければなりません。

国によるオンライン等導入の補助金があります。施設側に人手やノウハウ、自己負担分の余裕がない状況です。神戸市や鳥取県では独自の補助金を出していますが、兵庫県や明石市にはありません。市民のためにも、施設への細やかな支援に取り組む必要があります。

新型コロナウイルスにより行動が制約される中で「自転車・二輪」や「魚釣り」が3密を回避できるレジャーとして人気。明石市はどちらにも強みを持っています。

## 【サイクリングロード】

明石市には、兵庫県の「はりま〜東はりま・北はりまサイクリングマップ」にも記載された海沿いのサイクリングロードが整備されています。明石市が取り組むべきことは、道中に立ち寄ってもらいたいお店や名所の紹介、自動車に積んで来る人への駐車場案内など情報発信、イベントやキッチンカーのための場所提供といった側面支援です。楽しい取り組みに関わってくれる人を増やし、大きなお金をかけずに、今ある素材・恵まれた環境を活かすチャンスです。

## 【身近な関連死】

私の父は新型コロナウイルス流行の直前に胃・大腸ガンの手術を受け、術後の細やかなケアを母がしておりました。コロナ流行後、面会がほぼできなくなりました。病院の食事のどを通らず点滴に頼ることにになり、術後半を待たずに亡くなりました。

丁寧な看護を施してくれた病院には感謝の言葉もありません。基本面会禁止にも関わらず会いに行った母を咎めることなく、父が危篤の際には何度も連絡をしてくれました。病院が最善を尽くしてくれたことが、家族の心の救いになります。

病院や保健所で働く現場からは、疲労と不安を伺っています。現場の頑張りに頼るのでなく、制度づくりを政治や行政がしっかりとしなくてはなりません。

# ピンチをチャンスに!! 自転車・二輪・魚釣り

明石の観光資源を活用する

## 【ツーリング目的地】

大阪や京都、奈良方面からオートバイで日帰りツーリングに行く際、神戸・明石・姫路は手頃な目的地です。駐輪場やトイレ、記念撮影スポット、ご当地グルメなどに加え、行政がオートバイを歓迎する姿勢であることも、行きたい要素になります。

さらには、オートバイの国内メーカーのうちカワサキ（川崎重工業）は本社が神戸市にあり、明石市にオートバイの生産拠点があります。明石市として繋がり、官民コラボも期待したいところです。

## 【魚を楽しむまちとして】

15年ほど前、私はたこフェリー乗り場でしたこ焼き屋とレストランを営んでいました。すぐ隣に海上保安庁の船が泊まっております。密漁の取り締まりで押収した魚介類の買取りを依頼されたものです。魚種がバラバラだったのでお店で出すには難しいものでしたが、港ならではの出来事として覚えていきます。

密漁はいけません。魚のまち明石として、魚釣りの一歩先を行きたいもの。たとえば釣った魚を捌いてくれたり、料理してくれる店が欲しいという声を伺います。「ありそうで無かった」を作るだけで、明石は賑やかになるでしょうね。行政がそんな視点を持つだけで良くなる部分も多いと考えています。

